

# 国立大学法人東京芸術大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

東京芸術大学は、我国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命として教育研究と社会連携活動を推進している。第2期中期目標期間においては、国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「東京芸術大学社会貢献ポリシー」を策定し、企業や自治体等との「文化芸術普及活動」を積極的に推進しているほか、「KAKEHASHI プロジェクト」等の国際交流プロジェクトを実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### (機能強化に向けた取組状況)

役員会の下に「大学改革プラン推進会議」を設置し、年俸制導入を含めた人事・給与制度等の検討を行い、改革プランとして取りまとめているほか、学長のガバナンス機能を強化するため、新たに2名の副学長を置くとともに、部局長選考に関し、学長のビジョン等を共有して適切な役割を果たせる部局長を学長が直接選考できることとしているほか、専門性が高く社会との連携等が必要な「藝大アートプラザ」等の部局長については、学内に留まらず学外者を登用できることとする改革案を取りまとめている。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 東京芸術大学が持つ研究実績や文化資源、知的財産等を積極的に社会へ還元するため、「東京芸術大学社会連携ポリシー」を策定し、ウェブサイト等を通じて広く学内外へ公表するとともに、東京都美術館と連携し、来場者への作品解説などのOJT（職場研修）を中心とした専門的な人材育成プログラムである「とびらプロジェクト」の実施等の「文化芸術普及活動」を積極的に推進している。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(2) 財務内容の改善に関する目標**

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加及び資産の運用管理の改善、
- ②経費の抑制

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「東京芸術大学基金（藝大基金）」において、外部コンサルティング会社と連携した渉外活動を中心に寄附募集プロジェクトを展開し、1 億 7,000 万円を超える寄附金を獲得している。

### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「夏目漱石の美術世界展」等、25 件の展覧会を開催（延べ 217 日間：入場者 35 万 8,000 名）しているほか、演奏芸術センター企画演奏会、音楽学部・大学院音楽研究科の教育研究の成果である学位審査演奏会等を開催（128 件：入場者 5 万 9,000 名）するなど、大学の教育研究成果を積極的に発信している。

### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(4) その他業務運営に関する重要目標**

- ①施設設備の整備・活用等及び安全管理、②法令遵守

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 民間資金を活用した事業スキーム（事業者が、施設整備及び維持管理・運営サービス対価として入居者より入居費等を直接収受する独立採算で事業を実施）により、近隣の大学の学生も入居可能とした混住型学生宿舍「藝心寮（アトリエ、音楽練習室を完備）」を平成 26 年 3 月に完成させている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成24年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

**II. 教育研究等の質の向上の状況**

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 次世代の音楽界を担うことが期待される者を選考し、国内外での音楽研究活動を奨励することを目的として、新入生を対象とし在学期間中における短期留学を含めた国内外の音楽活動を支援する「東京藝術大学宗次徳二特待奨学生」を創設し、平成26年度の学部及び大学院修士課程の新入生4名を特待奨学生に決定している。
- 「芸術による『感動』を最先端の科学技術の応用によって実現していくコンテンツ先行型の研究開発」において、焼損した法隆寺金堂壁画を焼損前の姿に復元し、さらには飛鳥時代の造営当初の姿をイメージさせる芸術性豊かなコンテンツを開発し、その研究成果を「別品の祈り」として学内の陳列館で一般公開を行っている。
- 全国映画教育協議会と連携した「デジタルシネマの制作プロセス標準化によるアジア映像教育拠点化」プロジェクトにおいて、プロの映像技術者からのヒアリングにより映画制作過程のデジタル化の問題点や改善点を洗い出し、「デジタルシネマ制作調査報告書」を取りまとめるとともに、同報告書に基づく「技術研究のためのテスト撮影調査」ワークショップを実施している。
- グローバル化のさらなる推進を図るため、平成25年度から学長の下にグローバル化推進担当の学長特命2名を置くとともに、映画やアニメーション界の次世代のリーダー人材の育成を目的とし、学生23名を米国のニューヨーク大学ティッシュ・スクール・オブ・ジ・アーツ、ニューヨーク市立大学等に派遣した「KAKEHASHI プロジェクト」等の国際交流プロジェクトを実施しているほか、学術文化交流の促進及び芸術文化の振興に資するため、中国「敦煌研究院」と学術交流協定を締結している。